

県管理河川の被災対応について

岡山県土木部

1 危険箇所の把握について

危険箇所の把握について

- 水防上特に注意を要する箇所について、現状を把握し、重要水防箇所の選定を行っている。
- 県管理河川について、河川巡視、堤防点検を実施し、緊急度の高い箇所から浚渫、樹木伐採、修繕を行い、堤防内部の正常を把握する必要が認められる箇所については、堤防の詳細調査（地形調査（堤防断面測量）、地質調査）を実施している。

重要水防箇所総括表

平成30年7月時点

水系	計	
吉井川	184箇所	58,140m
旭川	286箇所	81,215m
高梁川	130箇所	42,240m
その他の水系	219箇所	77,910m
海岸	10箇所	600m
合計	829箇所	260,105m

重要水防箇所選定状況



河川巡視

頻度	方法
年2回以上	職員又は監視員によりバイク等

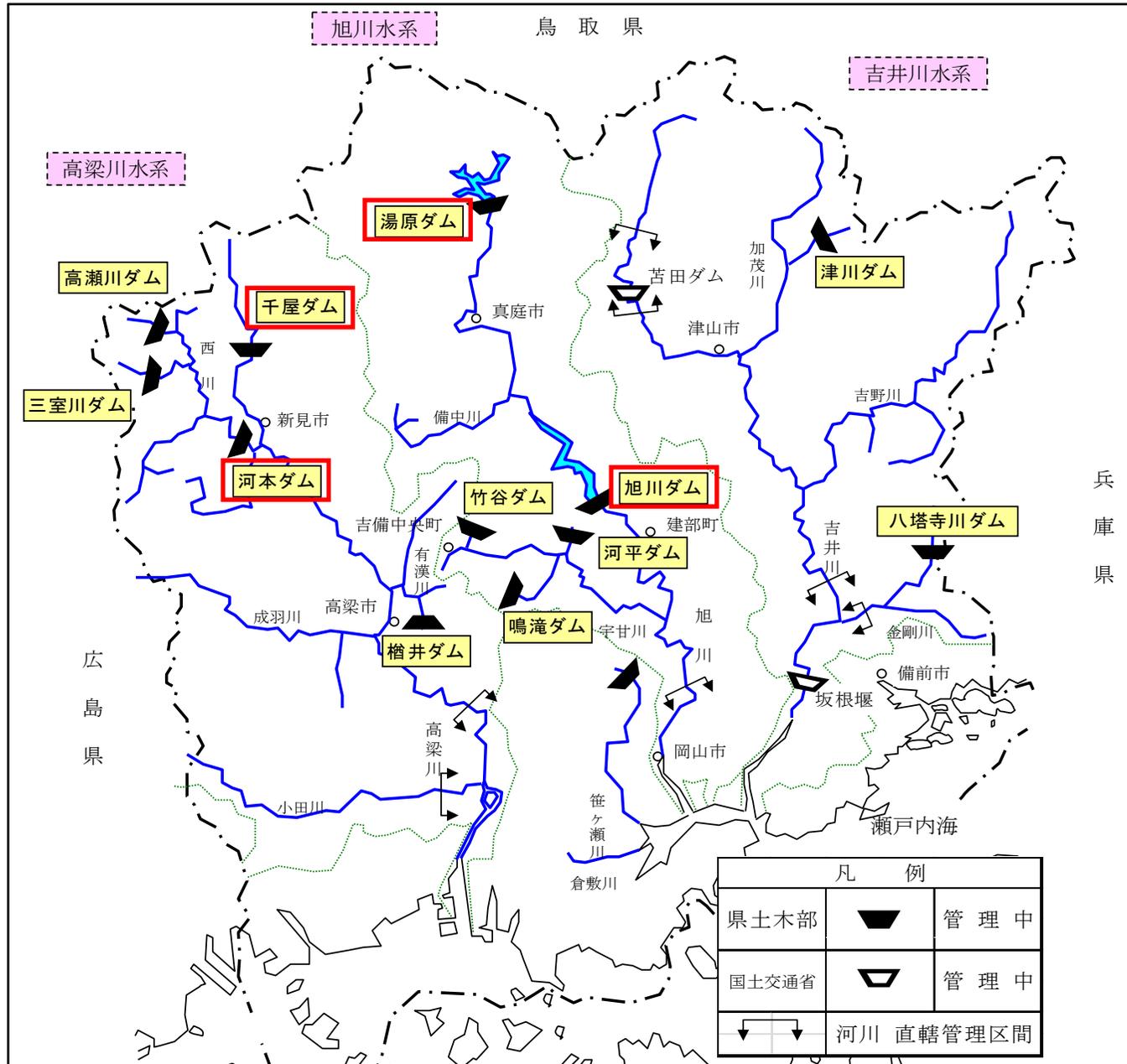
堤防点検

区間	頻度	方法
重要水防箇所	年1回	業者委託により徒歩
その他区間		職員又は監視員によりバイク等

2 7月豪雨におけるダムの 事前水位低下による効果検証

土木部管理ダムの位置図

[速報版(H30.10.5時点)]



ゲートダム

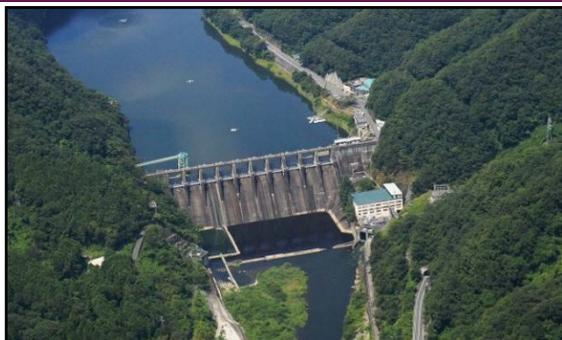
注) 千屋ダムもゲートダムであるが、「異常洪水時防災操作」時以外はゲート操作は行わない。

平成30年7月豪雨における土木部12ダムの概況

実績 ダム名	高梁川水系					旭川水系					吉井川水系	
	千屋	高瀬川	河本	三室川	櫛井	湯原	旭川	鳴滝	竹谷	河平	津川	八塔寺川
累計雨量 (mm) (ダム地点)	403	419	389	456	334	512	367	324	325	333	516	315
最大流入量 (m3/s) (日時)	373.52 (6日21時40分)	60.68 (7日7時00分)	877.04 (6日23時00分)	121.47 (6日21時20分)	21.59 (6日21時40分)	633.17 (7日9時30分)	2974.36 (7日0時30分)	30.43 (7日0時20分)	8.61 (6日23時00分)	22.61 (6日22時10分)	136.85 (6日23時10分)	147.80 (7日2時00分)
最大放流量 (m3/s) (日時)	161.91 (7日11時00分)	40.17 (7日11時00分)	746.82 (6日23時20分)	51.38 (7日8時50分)	12.75 (7日0時40分)	216.61 (7日8時20分)	2412.08 (7日0時20分)	29.70 (6日23時40分)	6.16 (7日0時30分)	12.13 (7日1時40分)	41.98 (7日15時10分)	97.37 (7日3時50分)
(ヒークカット量) (m3/s)	255.98	20.52	253.02	80.72	12.12	420.89	571.19	0.73	3.00	13.05	102.92	56.73
最高貯水位 (m) (日時)	394.80 (7日10時20分)	479.88 (7日7時00分)	225.21 (6日23時20分)	502.76 (7日8時50分)	337.05 (7日0時40分)	398.58 (7日19時10分)	108.87 (7日1時30分)	309.22 (6日23時40分)	308.69 (7日0時30分)	194.58 (7日1時40分)	375.61 (7日15時10分)	123.95 (7日3時50分)
洪水期間	5日 18時20分～ 5日 19時50分 6日 17時～ 7日 14時28分	5日 17時5分～ 6日 4時30分 6日 16時2分～ 7日 11時24分	5日 18時5分～ 5日 22時23分 6日 16時21分～ 7日 16時53分	5日 13時54分～ 6日 5時 6日 15時42分～ 7日 14時38分	5日 18時40分～ 5日 19時50分 6日 18時40分～ 7日 12時20分	6日 19時58分～ 7日 2時3分 7日 6時2分～ 7日 13時21分	5日 17時31分～ 6日 4時55分 6日 17時40分～ 8日 3時12分	6日 22時～ 7日 13時30分	5日 18時25分～ 5日 19時49分 6日 18時6分～ 7日 10時44分	5日 17時43分～ 6日 0時50分 6日 15時35分～ 7日 16時11分	5日 13時5分～ 6日 3時36分 6日 16時14分～ 8日 0時56分	5日 18時40分～ 6日 5時 6日 9時30分～ 7日 19時
放流警報活動の実施状況 ○：警報車、サイレン吹鳴 －：警報不要な状況	○	－	○	－	－	○	○	－	－	－	－	－

計画諸元												
ゲートの有無	5.5×6.35×4	無	12×10.3×2	無	無	5.5×8.2×6	12×9.3×10	無	無	無	無	無
サーチャージ水位 (m)	400.0	490.7	225.0	506.5	338.0	402.0	110.0	313.5	313.9	199.5	383.0	131.0
制限水位 (m)	－	－	218.0	－	－	398.5	103.5	－	－	－	－	－
常時満水位 (m)	385.5	469.7	225.0	492.5	333.8	402.0	110.0	308.4	306.3	189.7	363.5	116.5
洪水調節容量 (m3)	12,000,000	3,500,000	5,000,000	3,600,000	200,000	15,500,000	23,000,000	840,000	277,000	481,000	3,500,000	3,870,000
基本高水流量 (m3/s)	670	240	1,000	250	25	1,420	4,700	120	32.0	52.0	190	350
計画最大放流量 (m3/s)	200	50	625	65	15	600	3,700	40	13.0	19.0	55	150
洪水調節開始流量 (m3/s)	100	30	250	25	5	400	650	20	3	4	15	25

旭川ダム（旭川水系）の概要



ダム名	管理者	流域面積 (km ²)	洪水調節容量 ※ (千m ³)
旭川ダム	県	1140.0	23,000
湯原ダム	県	255.0	15,500
河本ダム	県	332.6	5,000
苫田ダム	国	217.4	50,000

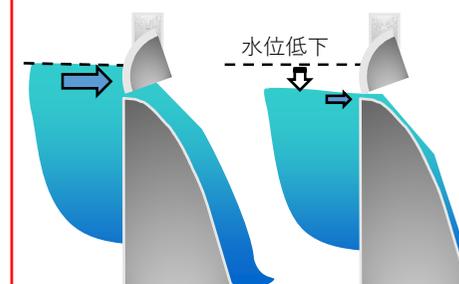
※ 洪水期洪水調節容量

所在地	左岸	岡山県岡山市北区建部町鶴田
	右岸	岡山県加賀郡吉備中央町神瀬
河川名	旭川(1級)	
目的	F.N.W.P(洪水調節・不特定用水・水道用水・発電)	
型式	G: 重力式コンクリートダム	
ゲート	テンターゲート10門	
流域面積	1,140km ²	
総貯水容量	57,382千m ³	
有効貯水容量	51,772千m ³	
洪水調節方式	一定率一定量	
管理開始	1955(昭和30年)	
適用法規	河川法	
利水者	上水道: 岡山市、真庭市、美咲町 発電: 岡山県企業局	

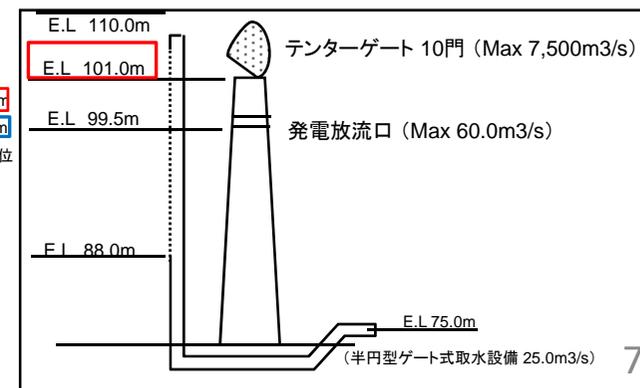
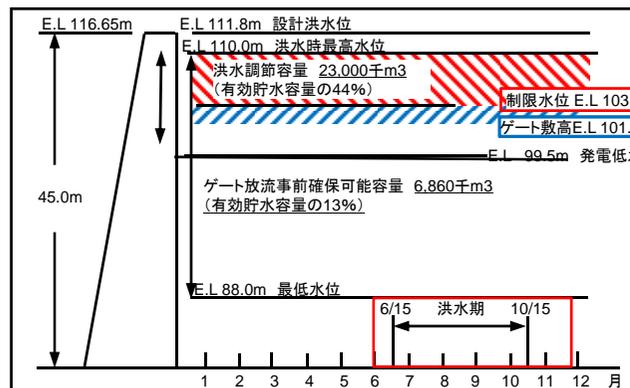
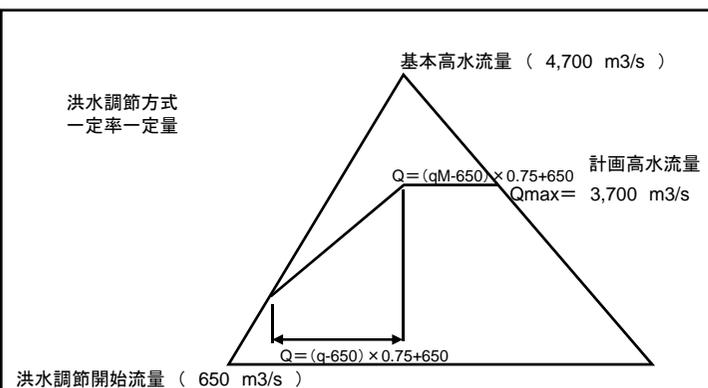
【旭川ダムの特徴】

- 当初は、発電目的に建設されたダムであったため、受け持つ流域に対して、一般的な多目的ダムとしては洪水調節容量が少ない。
苫田ダムと比較して、流域は5倍だが洪水調節容量は1/2。
(旭川全流域1,810km²の内、約63%の流域)
- 洪水調節用のゲートが堤体上部(101.0m)にあるため、水位が高くなるとゲートによる放流ができない。
(現状では、流入量が増える予測の場合には、事前に発電放流口から放流し、貯水位を低下させている。)
貯水位が低下し、ゲート敷高に近づくと、ゲートをいくら開けてもゲートからの放流可能な流量は減少して、流入量に近づく。
- ダムの洪水調節効果が、岡山市街地(直轄管理区間)にも影響を及ぼす。
水位低減の効果が広い範囲に及ぶ。

ダムの貯水位が低下すると放流可能な量も減少する



水位低下により水の流れようとする力(水圧)が弱くなり、放流量がダム操作に関係なく減少する。



河本ダム（高梁川水系）の概要



ダム名	管理者	流域面積 (km ²)	洪水調節容量 ※ (千m ³)
旭川ダム	県	1140.0	23,000
湯原ダム	県	255.0	15,500
河本ダム	県	332.6	5,000
苫田ダム	国	217.4	50,000

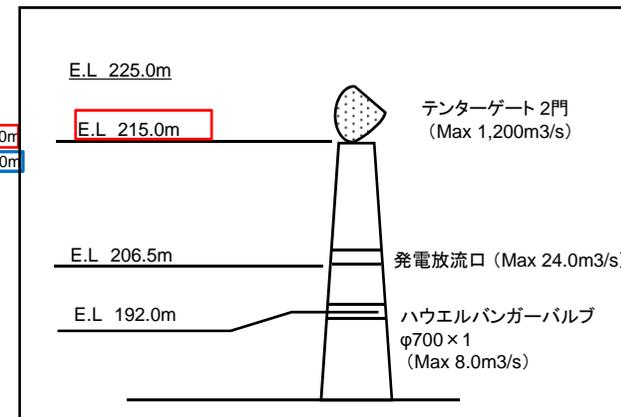
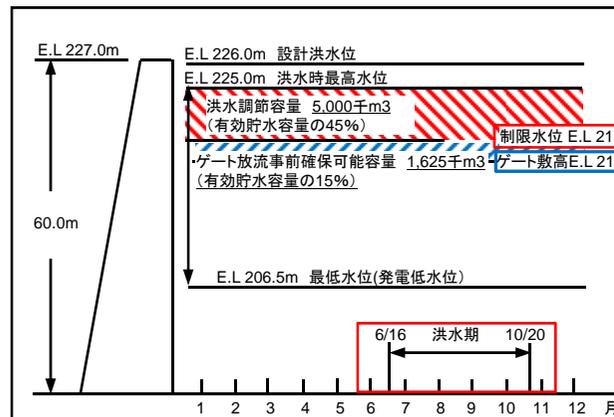
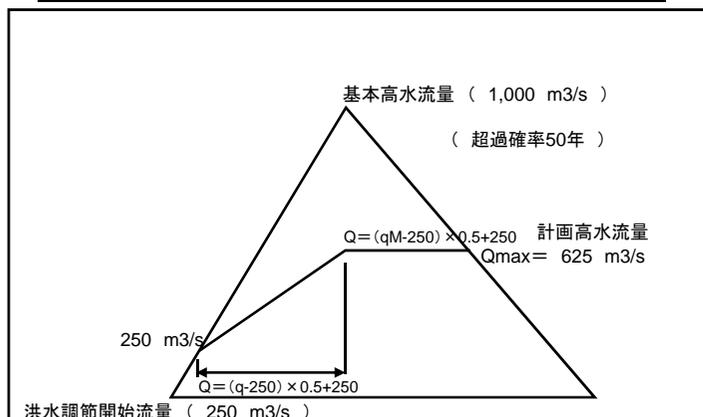
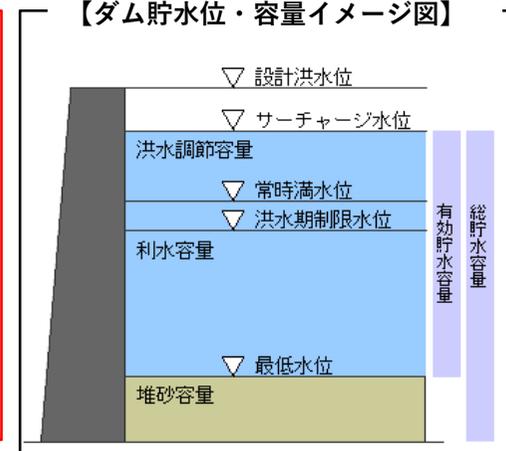
※ 洪水期洪水調節容量

所在地	左岸	岡山県新見市金谷
	右岸	岡山県新見市哲多宮河内
河川名	西川(1級)	
目的	F.I.P(洪水調節・工業用水・発電)	
型式	HG: 中空重力式コンクリートダム	
ゲート	テンターゲート2門	
流域面積	332.6 km ²	
総貯水容量	17,350 千m ³	
有効貯水容量	11,100 千m ³	
洪水調節方式	一定率一定量	
管理開始	1965(昭和40年)	
適用法規	河川法	
利水者	発電・工業用水: 企業局	

【河本ダムの特徴】

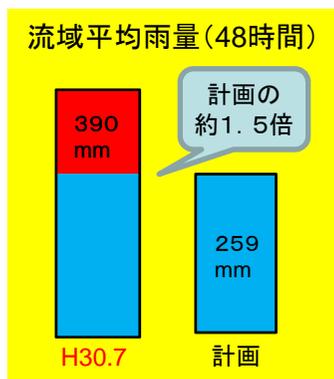
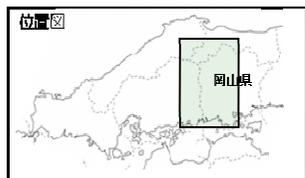
- 当初は、発電目的に建設されたダムであったため、受け持つ流域に対して、一般的な多目的ダムとしては洪水調節容量が少ない。
苫田ダムと比較して、流域は1.5倍だが洪水調節容量は1/10。
- 洪水調節用のゲートが堤体上部(215.0m)にあるため、水位が高くなるとゲートによる放流ができない。
(現状では、流入量が増える予測の場合には、事前に発電放流口から放流し、貯水位を低下させている。)
貯水位が低下し、ゲート敷高に近づく、ゲートをいくら開けてもゲートからの放流可能な流量は減少して、流入量に近づく。

【ダム貯水位・容量イメージ図】



7月豪雨：旭川ダムの洪水調節・警報活動

- 平成30年7月5日昼前から、活発な梅雨前線の影響により、旭川ダム上流域の2日間の累加雨量は計画の降雨量を超過。
 - 7月6日17時00分に「毎秒650m³以上を放流する」旨の連絡を関係機関に行い、20時45分には「2000m³/sを超える放流を開始する見込み」である旨を管理事務所から関係機関にFAXにより伝達した。
 - 県水防本部から報道機関へFAXおよびLアラートにより伝達した。
 - 住民への周知のため、警報所のサイレンの吹鳴、警報所及び警報車のスピーカーによる注意喚起を実施している。
- ※Lアラート：地方公共団体等が発信する災害関連情報等を集約し、テレビ、ラジオ、携帯電話、インターネット等の多様なメディアを通じて、住民に迅速かつ効率的に一括配信するための共通基盤のこと。



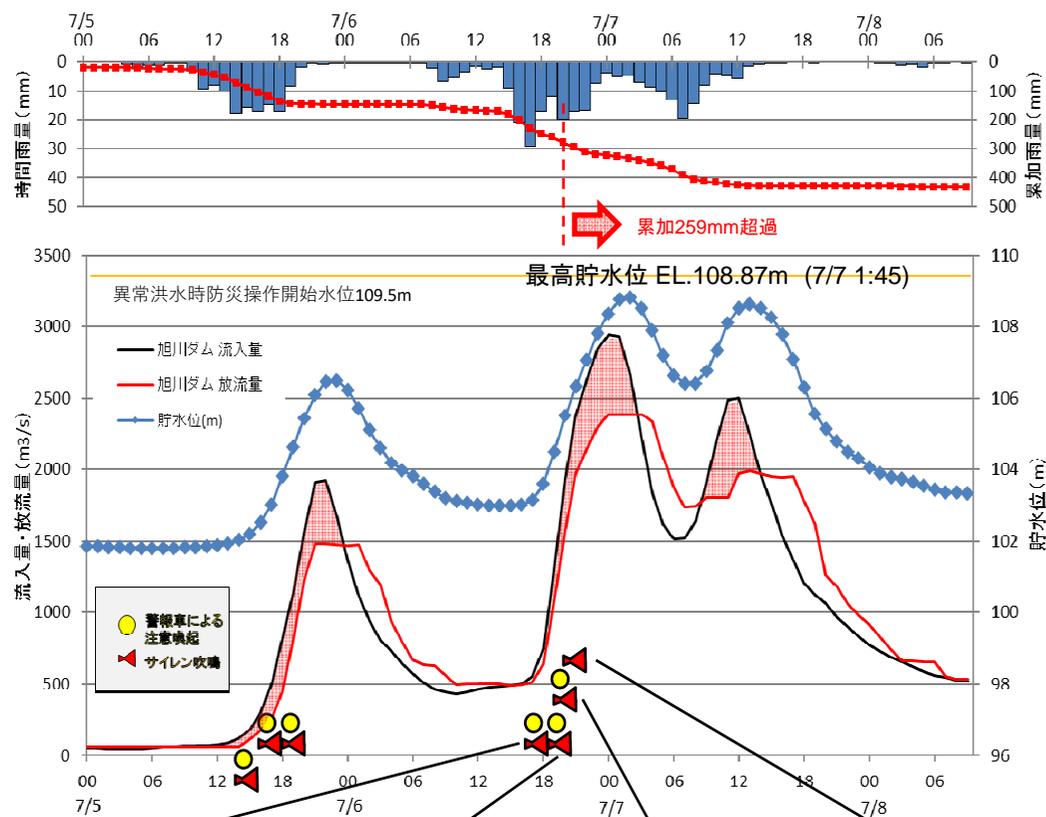
前線の影響により、長期降雨となったため、岡山全域で記録的な雨量となった。



制限水位EL.103.5m (6/15~)



貯水位 EL.106.74m (7/7 5:46)



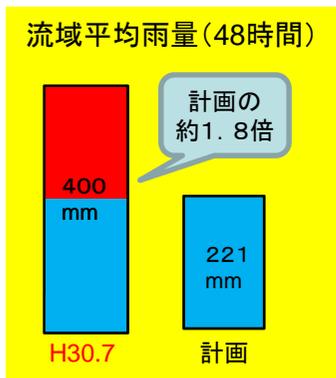
18:00	650m ³ /s放流開始	18:50	1000m ³ /s放流開始	19:50	1500m ³ /s放流開始	21:20	2000m ³ /s放流開始
17:00	関係機関通知	18:00	関係機関通知	19:00	関係機関通知	20:55	関係機関通知
17:30	警報車	18:30	警報車(第2堰堤~)	19:30	警報車(第2堰堤~)	未実施	警報車(道路冠水のため)
16:57	サイレン	17:57	サイレン	18:57	サイレン	20:47	サイレン

7月豪雨：河本ダムの洪水調節・警報活動

○平成30年7月5日昼前から、活発な梅雨前線の影響により、河本ダム上流域の2日間の累加雨量は計画の降雨量を超過。
 ○7月6日16時30分に「毎秒250m³以上を放流する」旨の連絡を関係機関に行い、22時00分には「23時00分には異常洪水時防災操作を開始する見込み」である旨を管理事務所から関係機関にFAXにより伝達した。県水防本部から報道機関へFAXおよびLアラートにより伝達した。22時30分には住民への周知のため、警報所のサイレンの吹鳴、警報所及び警報車のスピーカーによる注意喚起を実施している。

新見市では、20時45分には全域に避難指示の発令を伝える告知放送により市民に周知が行われている。

※Lアラート：地方公共団体等が発信する災害関連情報等を集約し、テレビ、ラジオ、携帯電話、インターネット等の多様なメディアを通じて、住民に迅速かつ効率的に一括配信するための共通基盤のこと。



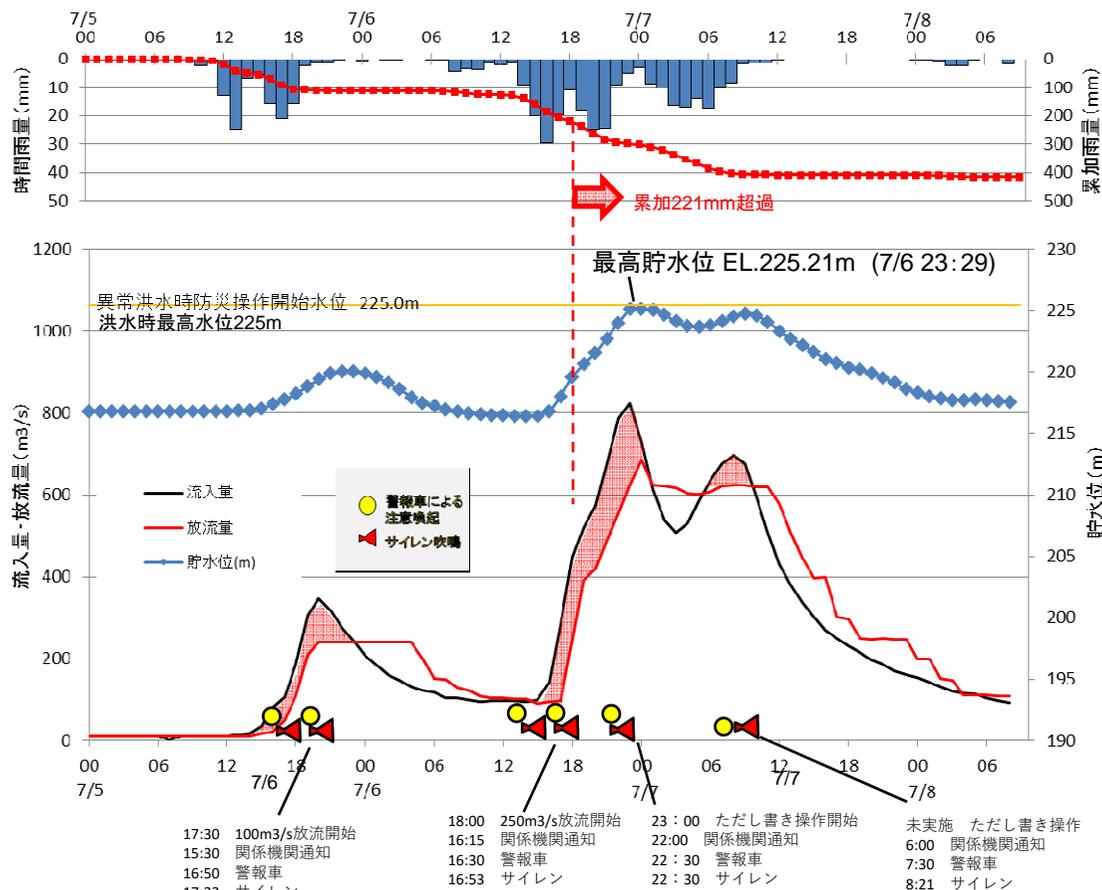
前線の影響により、長期降雨となったため、岡山全域で記録的な雨量となった。



制限水位EL.218m (7/1~)



貯水位 EL.223.68m (7/7 5:00)



一般住民への警報活動

■ ダムの放流に関する注意喚起は、看板や警報装置および警報車による巡回により行なっている。



警報装置
(サイレン吹鳴)

放流注意看板

放流情報電光表示板



警報車
による巡回

警報車による巡回経路（各ダムで設定）

■警報車によるダム放流に伴う警報活動は、事前に設定した巡回経路に沿ってアナウンスを放送。

詳細マップ2



ポイントC



ポイントD



ポイントE



ポイントF

08-1.警報ルート図 2

詳細マップ9



ポイントZ

- ・放流開始時の警報活動はここで終了です。Uターンしてダムへ戻ってください。
- ・帰路はアナウンスを停止し、通常の速度で走行してください。
- ・警報局閃光点検表を用いて点検を行いながら戻ってください。

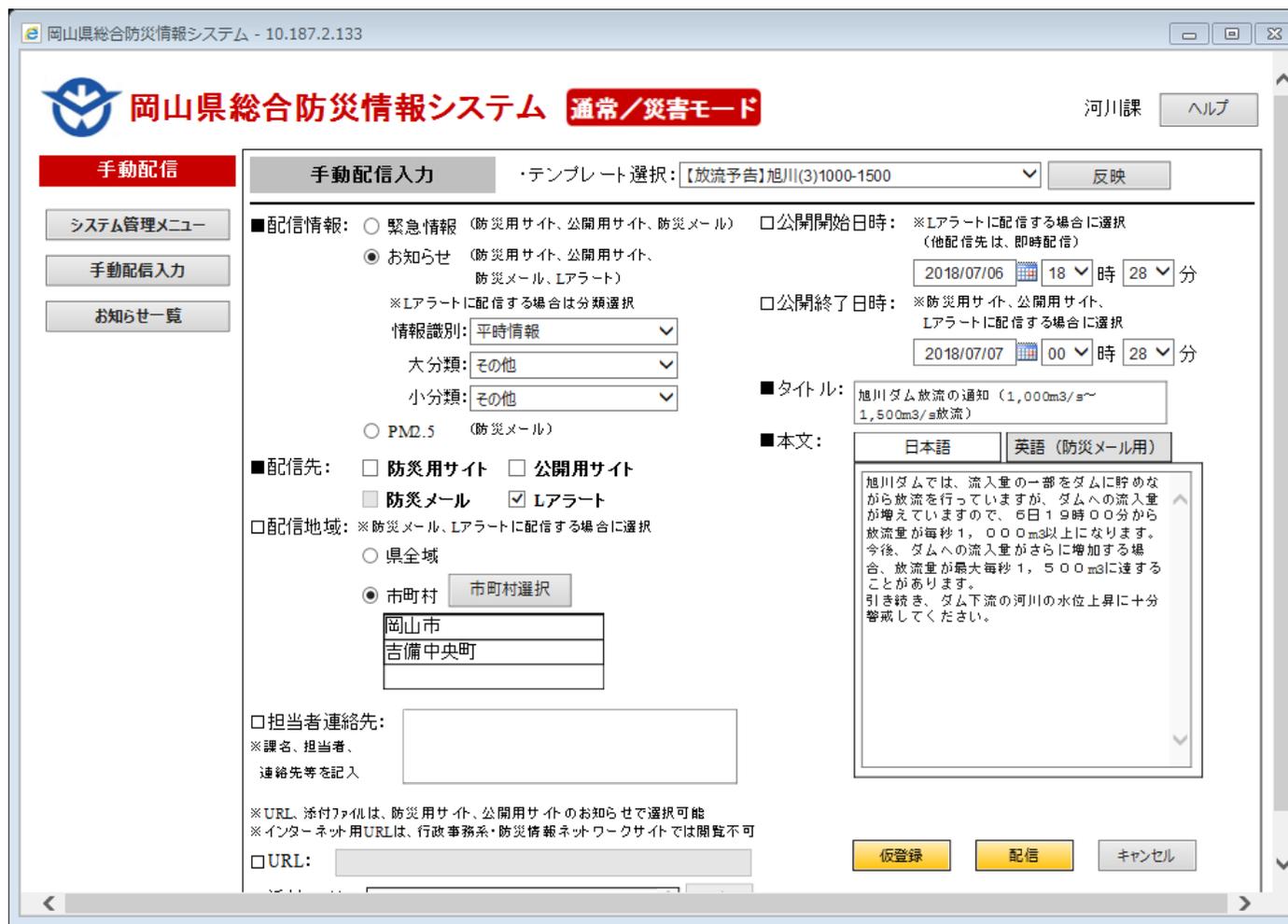
- ・100t以上の警報活動はそのまま180号を南下してください。

08-1.警報ルート図 11

放流情報等の通知（マスコミ）

■ダム放流に関する情報は、FAX送信及び岡山県総合防災情報システムからLアラートによりマスコミへ事前通知している。

Lアラート配信画面



岡山県総合防災情報システム - 10.187.2.133

岡山県総合防災情報システム 通常/災害モード 河川課 ヘルプ

手動配信

システム管理メニュー
手動配信入力
お知らせ一覧

手動配信入力 テンプレート選択: 【放流予告】旭川(3)1000-1500 反映

■配信情報: 緊急情報 (防災用サイト、公開用サイト、防災メール) お知らせ (防災用サイト、公開用サイト、防災メール、Lアラート)
※Lアラートに配信する場合は分類選択
情報識別: 平時情報
大分類: その他
小分類: その他
 PM2.5 (防災メール)

■公開開始日時: ※Lアラートに配信する場合に選択 (他配信先は、即時配信)
2018/07/06 18時 28分
■公開終了日時: ※防災用サイト、公開用サイト、Lアラートに配信する場合に選択
2018/07/07 00時 28分

■配信先: 防災用サイト 公開用サイト
 防災メール Lアラート

■配信地域: ※防災メール、Lアラートに配信する場合に選択
 県全域
 市町村 市町村選択
岡山市
吉備中央町

■タイトル: 旭川ダム放流の通知 (1,000m³/s~1,500m³/s放流)

■本文: 日本語 英語 (防災メール用)
旭川ダムでは、流入量の一部をダムに貯めながら放流を行っています。ダムへの流入量が増えていますので、6日19時00分から放流量が毎秒1,000m³以上になります。今後、ダムへの流入量がさらに増加する場合は、放流量が最大毎秒1,500m³に達することがあります。引き続き、ダム下流の河川の水位上昇に十分警戒してください。

■担当者連絡先:
※課名、担当者、連絡先等を記入

※URL、添付ファイルは、防災用サイト、公開用サイトのお知らせで選択可能
※インターネット用URLは、行政事務系・防災情報ネットワークサイトでは閲覧不可

■URL:

仮登録 配信 キャンセル

Lアラート：地方公共団体等が発信する災害関連情報等を集約し、テレビ、ラジオ、携帯電話、インターネット等の多様なメディアを通じて、住民に迅速かつ効率的に一括配信するための共通基盤のこと。

放流情報に関する通知状況（関係機関、一般住民）

■ダム放流に関する情報は、事前に関係機関へ通知するとともに、一般住民へ防災メール等を通じて通知している。

旭川ダム通知記録簿（30年7月5日）

⑦ 放流量が1,000m³/s以上の時

旭川ダムは、5日19時00分現在約1,143 m³/sの流入があり、1,021 m³/sの放流（発電放流を含む）を行っていますが、流入量が増えていますので5日19時00分頃から1,021 m³/sの放流（発電放流を含む）を行う予定です。その後の放流量は次第に増加する見込みです。十分警戒して下さい。行っています。

発信時刻（19:00）

受信者	受信時刻	発信者
	時 分	

記入して下さい。

必ず返信して下さい。

※ 受信確認のため電話かFAXで返信して下さい。

TEL 086-722-0113・086-722-1143
FAX 086-722-2391

ダムが放流した時には、関係機関に放流情報を通知する（FAX送信、着信確認）

着信確認用

旭川ダム通知記録簿（30年7月5日）

⑦ 放流量が1,000m³/sを超える時

旭川ダムは、5日19時00分現在約1,143 m³/sの流入があり、1,021 m³/sの放流（発電放流を含む）を行っていますが、流入量が増えていますので5日19時00分頃から1,021 m³/sの放流（発電放流を含む）を行う予定です。その後の放流量は次第に増加する見込みです。十分警戒して下さい。行っています。

発信時刻（19:00）

	通知先	連絡時刻	発信者	受信者	備考
1	河川課	19:05	岡山県	河川課	
2	岡山河川事務所	19:19	岡山県	河川課	
3	備前県民局建設部	19:22	岡山県	河川課	
4	発電総合管理事務所	19:06	岡山県	河川課	
5	岡山北警察署	19:07	岡山県	河川課	
6	岡山市危機管理室	19:24	岡山県	河川課	
7	岡山市北区役所建設部支所	19:10	岡山県	河川課	
8	岡山市北区役所法律支所	19:10	岡山県	河川課	
9	県警本部	19:17	岡山県	河川課	
10	大久保地区	19:06	岡山県	河川課	電話連絡
11	旭川一南漁協		岡山県	河川課	電話連絡
12	旭川漁協		岡山県	河川課	FAX（着信確認は不要） 注意：FAX送信時は別に送信

----- Forwarded message -----

From: mail_service@bousai.pref.okayama.jp <mail_service@bousai.pref.okayama.jp>
Date: 2018年7月6日(金) 18:34
Subject: おかやま防災情報メール
To: <ok[redacted]@com>

岡山県からの観測に関する情報
2018年07月06日 18:10

【岡山市】

■旭川ダム(旭川) - 放流量 679.540m³/s
通知基準放流量(650m³/s)を超えました。
(洪水調整中 - 流入量 808.770m³/s)

【新見市】

■河本ダム(高梁川) - 放流量 276.350m³/s
通知基準放流量(250m³/s)を超えました。
(洪水調整中 - 流入量 513.370m³/s)

ダム下流の河川水位の上昇に注意してください。
観測値の欠測の発生により、メール配信の遅延や重複して配信される場合があります。

☆詳細はこちら⇒ <http://www.bousai.pref.okayama.jp/bousai/mb/observation/dam/>

情報提供：岡山県危機管理課

メール配信サービスの変更・停止は空メールを送信してください。
変更⇒ in@bousai.pref.okayama.jp
停止⇒ out@bousai.pref.okayama.jp

ダム放流情報は、岡山県防災メールでも情報を通知している。
(登録者へ自動送信)

7月豪雨：ダムが事前放流した場合の効果検証

【検証条件】

- ①対象ダム：旭川ダム、河本ダム
- ②開始水位：事前放流した場合（ゲート敷高※まで低下）と事前放流しなかった場合（制限水位※）
- ③放流量：現実の放流量計算やゲート可動速度による放流の遅れを考慮しない計算値※
- ④流入量：7月豪雨による1時間データ（旭川ダム 60分平均値、河本ダム 10分平均値）

※制限水位：この水位以上が洪水調節容量

※ゲート敷高：ゲート放流が可能な最低水位

※放流計算値：流入量が100%予測でき、かつ、ゲート放流の遅れが発生しないような放流

検証結果

・2ダムとも事前放流により貯水容量を確保しても、7月豪雨の場合には2山目の最高貯水位及び最大放流量への低減効果は見込めない。

【理由】

事前放流により確保した貯水容量は、3山洪水のうち1山目の洪水で使い切ってしまう、2山目以降の洪水へは効果を発揮しない。

◆旭川ダム：1山目についても、事前放流による貯水位や放流量の低減効果は見込めない。

◆河本ダム：1山目については、事前放流による放流量の低減効果がある。

（事前放流あり：最大放流250m³/s 事前放流無し：最大放流299m³/s）

旭川ダム(旭川水系)の事前放流による効果検証

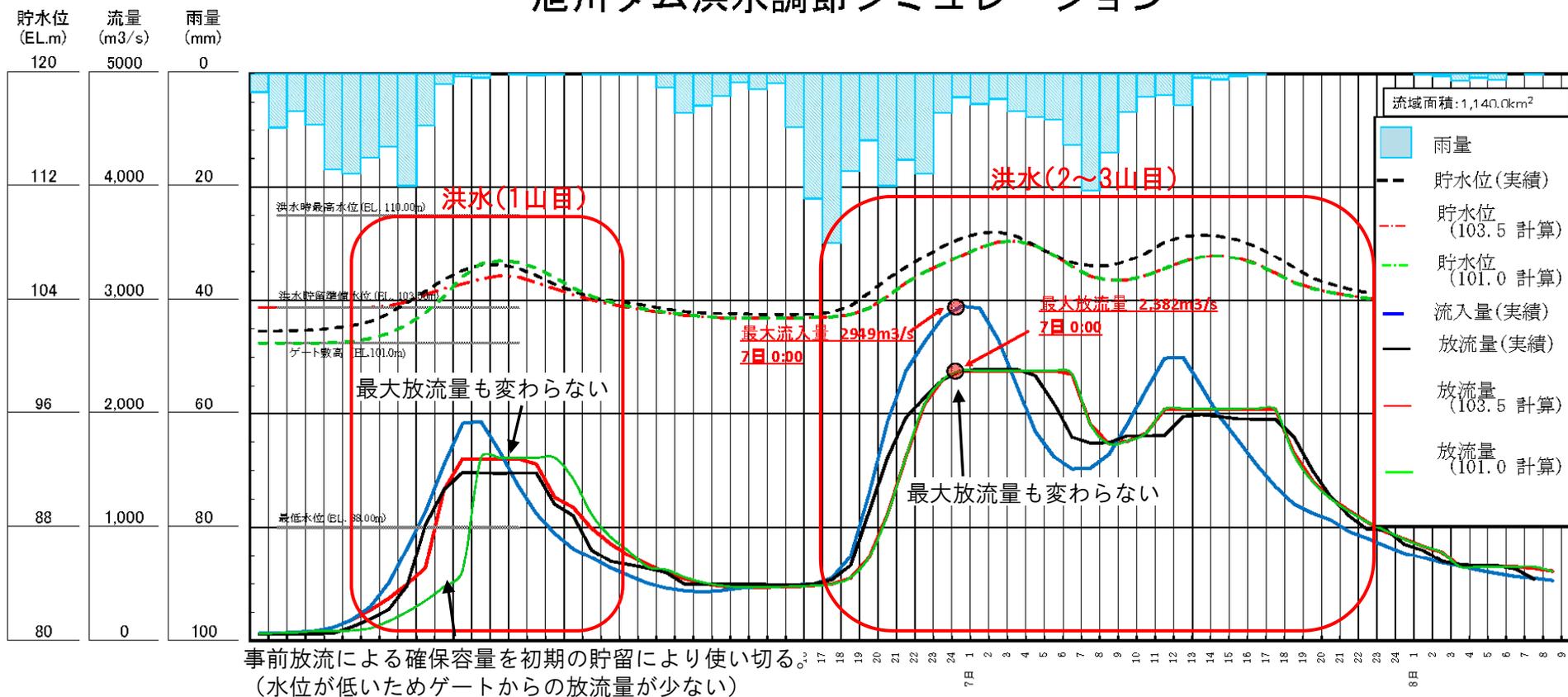
事前放流して貯水容量を増加させても、1山目から2山目までの間で効果はなくなり、2山目以降の洪水に対しては、最大放流量及び最大貯水位への影響は見込めない。

7月豪雨のような長時間（複数の洪水波形）に及ぶ降雨に対しては、事前放流の効果は小さい。

- ・ 1山目の洪水：最大放流量の低減効果は見込まれない。
- ・ 2山目以降の洪水：最大放流量の低減効果は見込まれない。

制限水位：103.5m
ゲート敷高：101.0m

旭川ダム洪水調節シミュレーション



河本ダム（高梁川水系）の事前放流による効果検証

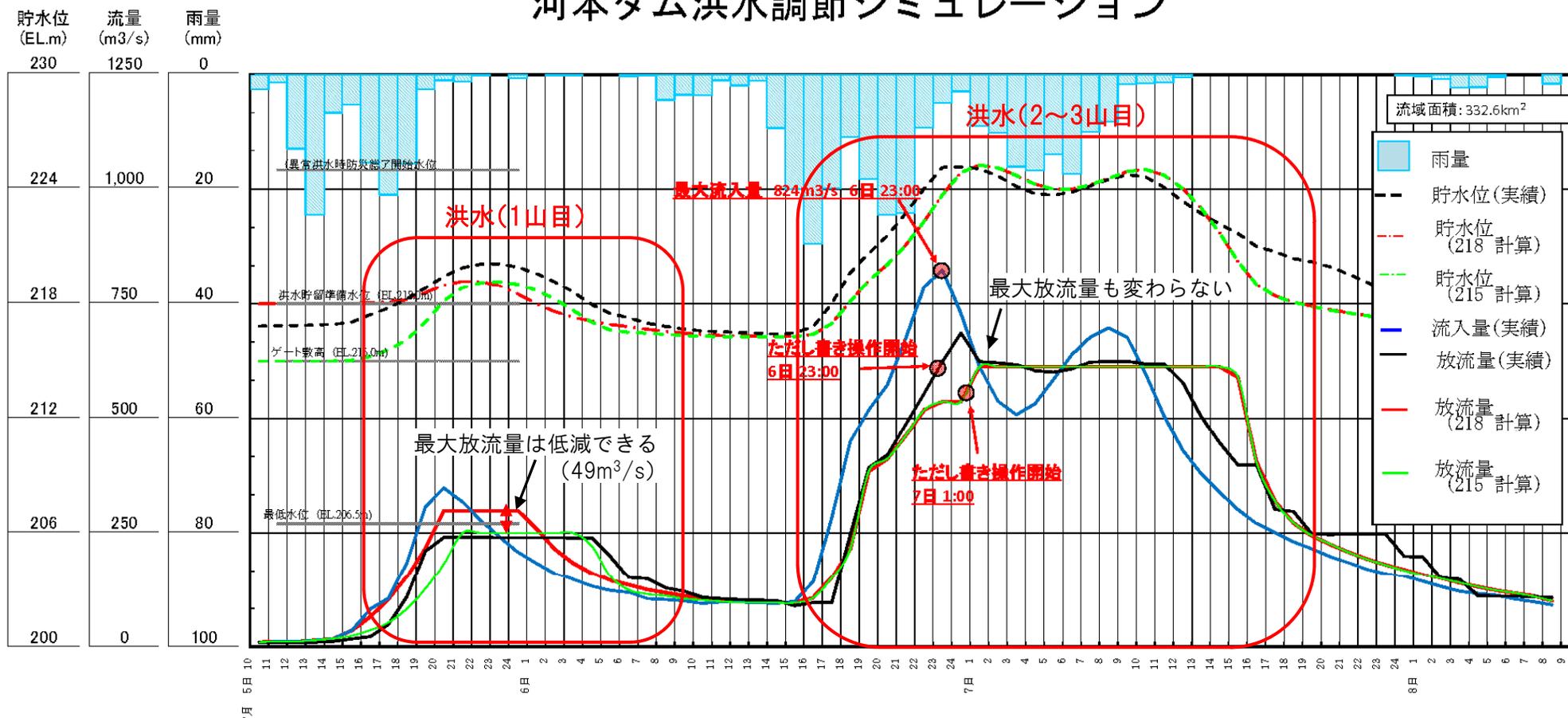
事前放流して貯水容量を増加させても、1山目から2山目までの間で効果はなくなり、2山目以降の洪水に対しては、最大放流量及び最大貯水位への影響は見込めない。

7月豪雨のような長時間（複数の洪水波形）に及ぶ降雨に対しては、事前放流の効果は小さい。

- ・ 1山目の洪水：最大放流量の低減効果あり。（低減流量49m³/s）
- ・ 2山目以降の洪水：最大放流量の低減効果は見込まれない。

制限水位：218.0m
ゲート敷高：215.0m

河本ダム洪水調節シミュレーション



旭川ダム(旭川水系)の事前放流による効果検証

【開始水位：最低水位（利水容量下限）、初期放流を特例操作（警報活動実施後）により増加】

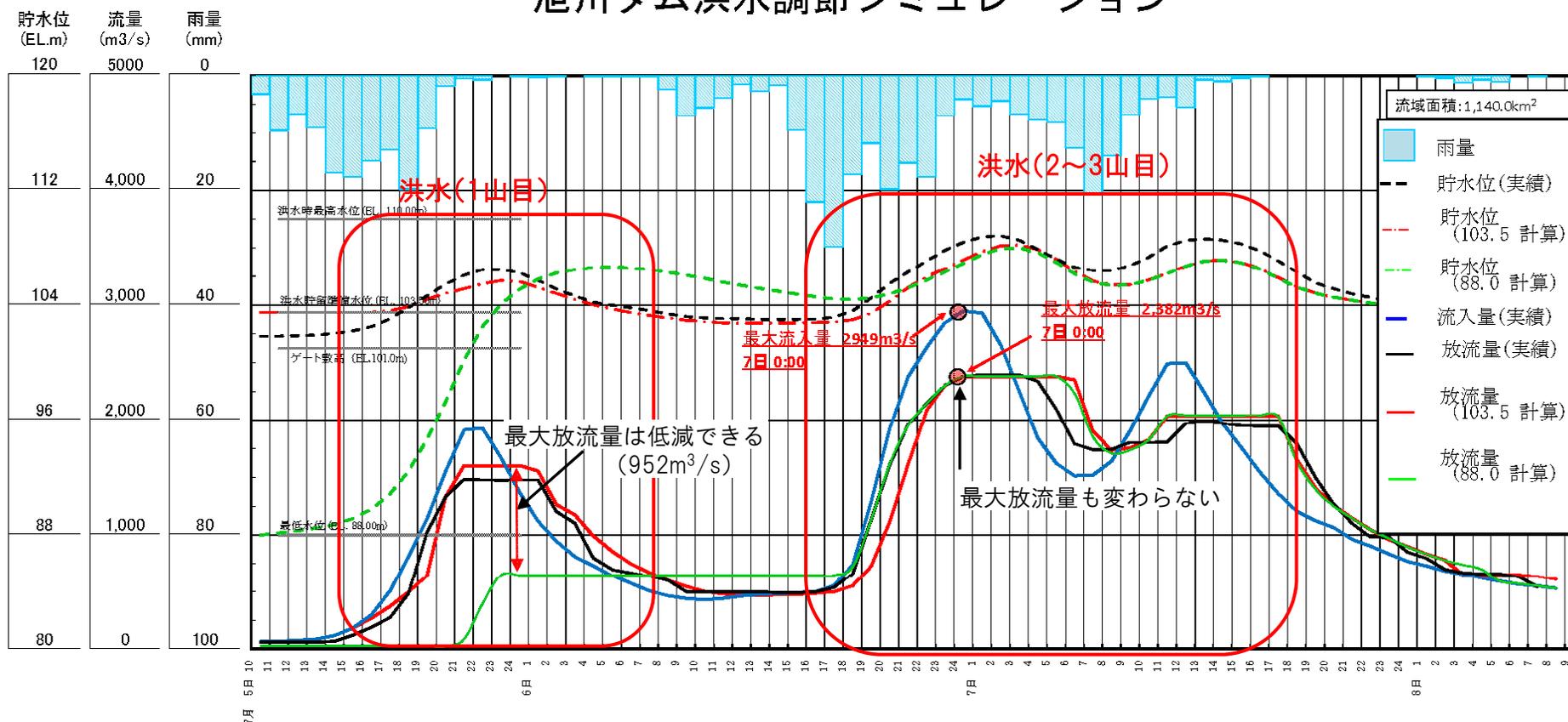
事前放流して貯水容量を増加させても、1山目から2山目までの間で効果はなくなり、2山目以降の洪水に対しては、最大放流量への影響は見込めない。

7月豪雨のような長時間（複数の洪水波形）に及ぶ降雨に対しては、事前放流の効果は小さい。

- ・ 1山目の洪水：最大放流量の低減効果あり。（低減流量952m³/s）
- ・ 2山目以降の洪水：最大放流量の低減効果は見込まれない。

制限水位：103.5m
 最低水位：88.0m

旭川ダム洪水調節シミュレーション



河本ダム（高梁川水系）の事前放流による効果検証

【開始水位：最低水位（利水容量下限）、初期放流を特例操作（警報活動実施後）により増加】

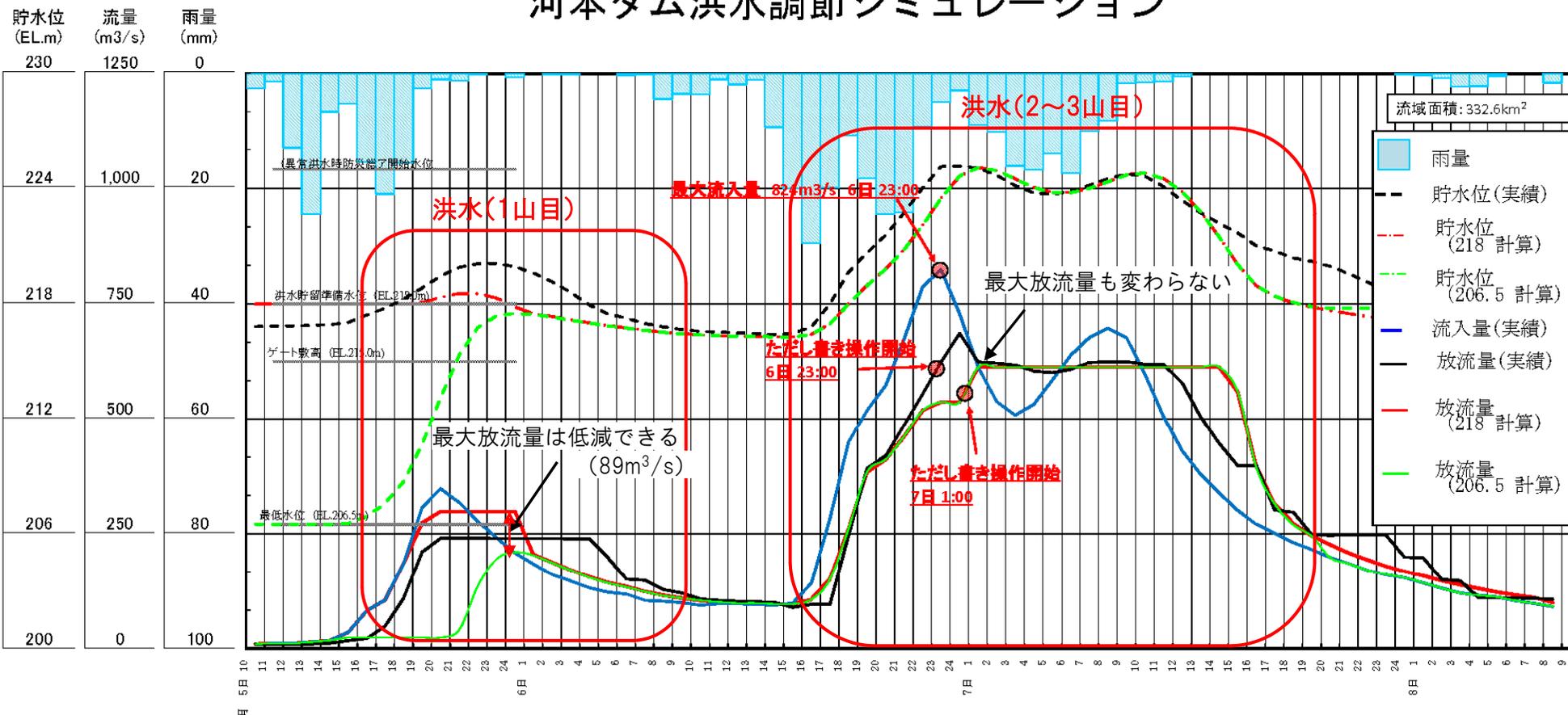
事前放流して貯水容量を増加させても、1山目から2山目までの間で効果はなくなり、2山目以降の洪水に対しては、最大放流量及び最大貯水位への影響は見込めない。

7月豪雨のような長時間（複数の洪水波形）に及ぶ降雨に対しては、事前放流の効果は小さい。

- ・ 1山目の洪水：最大放流量の低減効果あり。（低減流量89m³/s）
- ・ 2山目以降の洪水：最大放流量の低減効果は見込まれない。

制限水位：218.0m
 最低水位：206.5m

河本ダム洪水調節シミュレーション



3 決壊の通報とその後の措置

決壊の通報とその後の措置

■ 決壊の通報とその後の措置（高馬川のケース）

- ・ 県は堤防決壊を倉敷市に派遣の国リエゾンからの情報提供により把握した。
- ・ 倉敷市は消防団（水防団）が住民の避難誘導を行っていた。
- ・ 備中県民局は決壊を把握した後、状況確認のため現場へ向かったが、既に浸水範囲が広がり現場に近づけなかった。水位が低下した後、土のうや盛土等による緊急の締切工事を実施。

■ 課題（高馬川のケース）

- ・ 水防管理者である倉敷市から県に堤防決壊の通報がなかった。
- ・ 決壊情報の把握に時間を要した。

■ 今後の対応

- ・ 堤防の決壊等が発生したときは、市町村から県へ通報することを徹底するとともに、市町村等と連携し、迅速な情報収集の方法を検討する。

● 決壊の通報（水防管理者（市町村）が県に通報する）

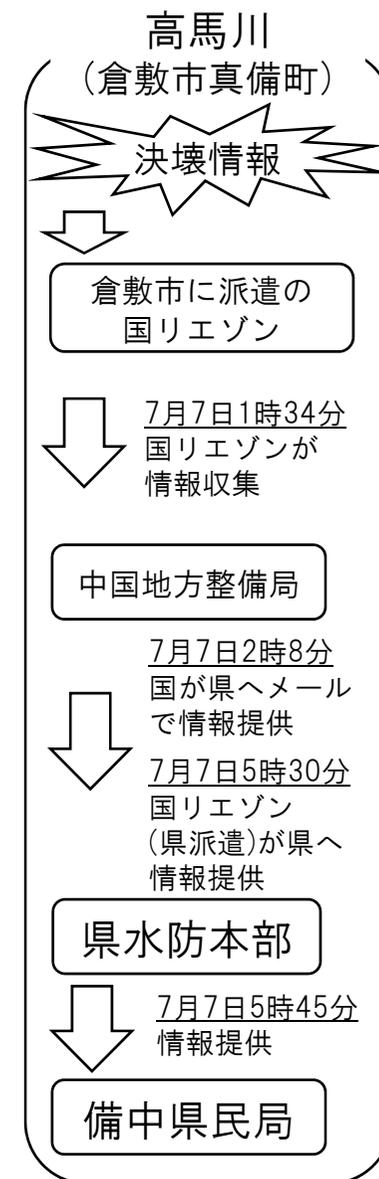
（水防法第25条）

堤防その他の施設が決壊し、又はこれに準ずべき事態が発生したときは、**水防管理者**、水防団長又は消防機関の長は、直ちにその旨を**関係県民局長**、**管轄警察署長**、**氾濫する方向の隣接水防管理団体及び付近の住民**に対して**通報しなければならない**。

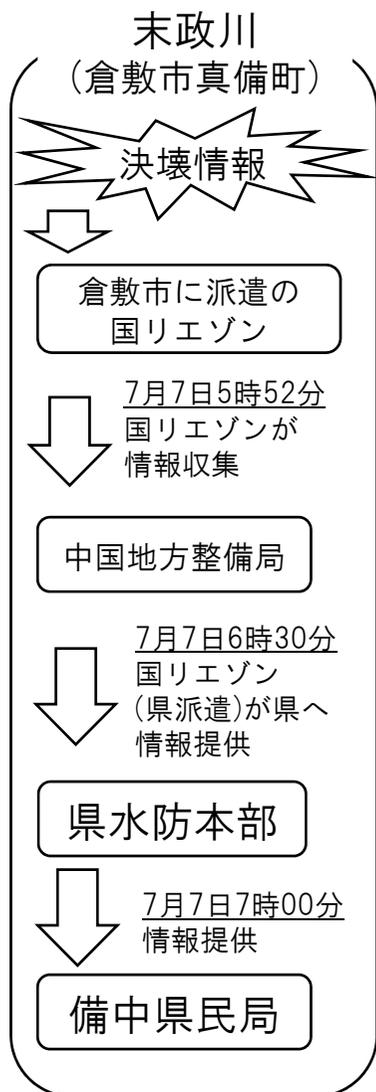
● 決壊後の措置（水防管理者（市町村）は被害が拡大しないように努めなければならない）

（水防法第26条）

堤防その他の施設が決壊したときにおいても、**水防管理者**、水防団長、**消防機関の長及び水防協力団体の代表者**は、できる限り氾濫による**被害が拡大しないように努めなければならない**。

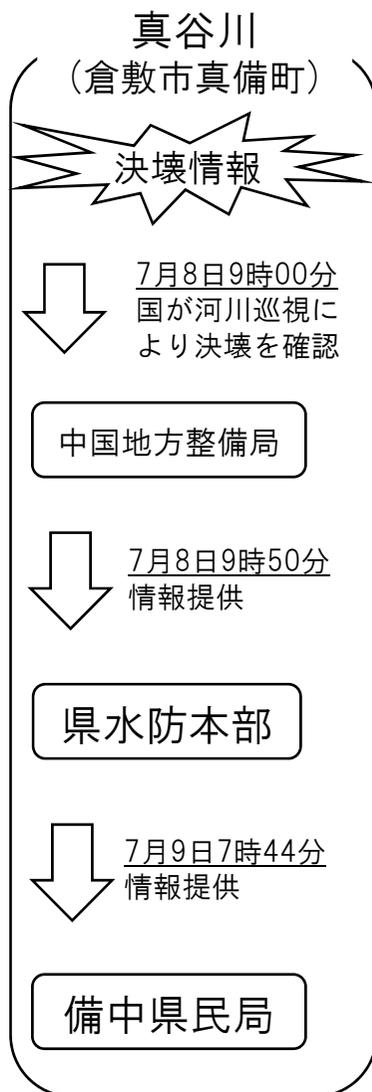


その他の決壊箇所の通報状況（その1）



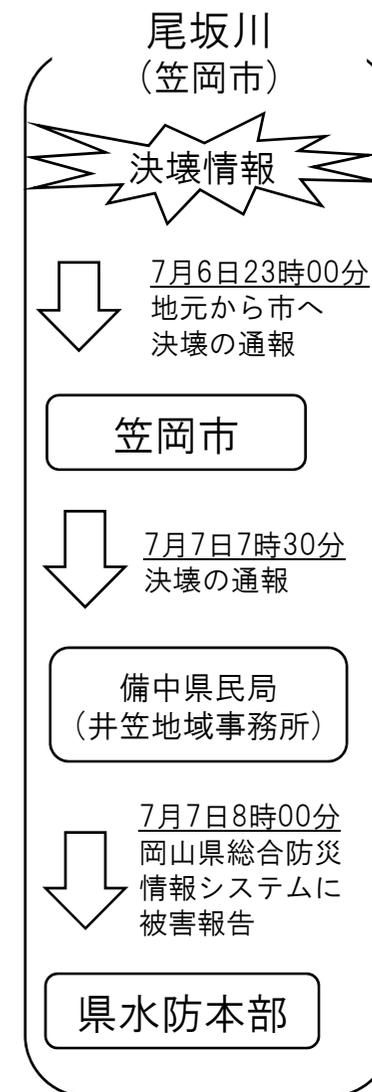
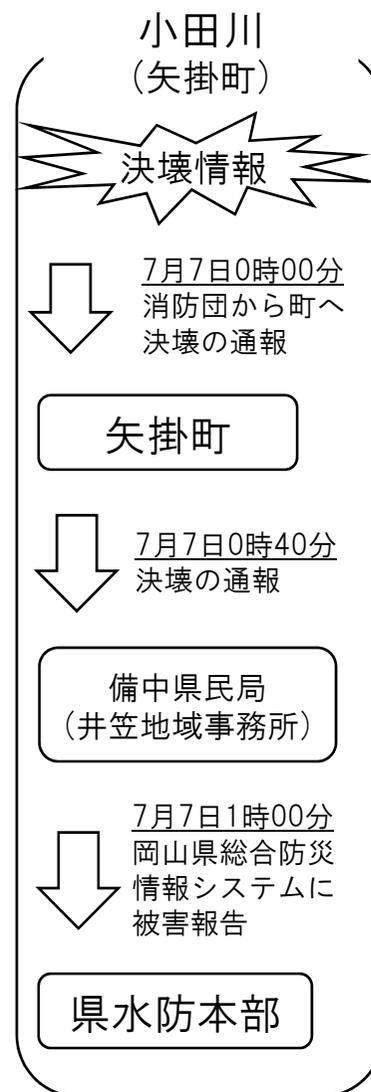
問題点

- ・決壊情報の把握に時間を要した。
- ・倉敷市から決壊の通報がなかった。



問題点

- ・決壊情報の把握に時間を要した。
- ・倉敷市から決壊の通報がなかった。



問題点

- ・決壊情報の把握に時間を要した。

その他の決壊箇所への通報状況（その2）

旭川
(岡山市北区)

決壊情報

7月7日5時30分まで
地元から市へ
決壊の通報

岡山市

7月7日7時00分
決壊の通報

備前県民局

7月7日10時20分
現地で決壊を確認

7月7日10時56分
決壊の通報

県水防本部

砂川
(岡山市東区)

決壊情報

7月7日3時00分
消防署から市へ
決壊の通報

岡山市

道路冠水情報

7月7日3時00分
地元から
道路冠水の通報

備前県民局

7月7日5時00分
現地で決壊を確認

7月7日5時30分
決壊の通報

県水防本部

高梁川
(総社市)

決壊情報

7月7日6時45分
地元から市へ
決壊の通報

総社市

7月7日17時30分
決壊の通報

備中県民局

7月11日18時00分
決壊の通報

県水防本部

岩倉川
(井原市)

決壊情報

7月7日14時00分
地元から市へ
決壊の通報

井原市

7月7日21時30分
決壊の通報

備中県民局
(井笠地域事務所)

7月8日17時00分
決壊の通報

県水防本部

高屋川
(井原市)

決壊情報

7月7日14時30分
地元から市へ
決壊の通報

井原市

7月7日21時30分
決壊の通報

備中県民局
(井笠地域事務所)

7月8日17時00分
決壊の通報

県水防本部

問題点

- ・決壊情報の把握に時間を要した。
- ・現地確認が優先され水防本部への連絡が遅れた。

問題点

- ・決壊情報の把握に時間を要した。
- ・岡山市から決壊の通報がなかった。

問題点

- ・決壊情報の把握に時間を要した。
- ・現地確認が優先され水防本部への連絡が遅れた。

問題点

- ・決壊情報の把握に時間を要した。
- ・現地確認が優先され水防本部への連絡が遅れた。

問題点

- ・決壊情報の把握に時間を要した。
- ・現地確認が優先され水防本部への連絡が遅れた。

4 水防災意識社会の再構築

水防災意識社会の再構築

- 水防災意識社会の再構築を目指し、「岡山県大規模氾濫減災協議会」を設立（H29.5.22）
- 各機関がそれぞれ又は連携して取り組む「地域の取組方針」を取りまとめ（H30.3.1）
- 今後は、進捗状況を共有するとともに、必要に応じて取組方針の見直しを行うなどのフォローアップを行い、水防災意識を高めていく

<岡山県大規模氾濫減災協議会>

- 構成 国、県、市町村
- 目的 社会全体で常に洪水に備える「水防災意識社会」の再構築を目指す

<地域の取組方針>

■ 概ね5年間（H33年度まで）で実施する主な取組

機関	ハード対策	ソフト対策
県	<ul style="list-style-type: none"> ・ 堤防や拡幅等の整備 ・ 堆積土掘削や樹木伐採 ・ 水位計の設置 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 浸水想定区域図の作成 ・ ホットラインの構築
市町村	<ul style="list-style-type: none"> ・ 防災行政無線の改良 ・ 堤内地の排水対策 	<ul style="list-style-type: none"> ・ ハザードマップ作成 ・ タイムラインの精度向上
国	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県、市町村の支援 	

事例：ホットライン(H30.5～)

■ 仕組み
 (これまでの取組) 県民局担当者
 ↓ 水位情報等 FAX 電話
 市町村担当者

+

(ホットライン) 県民局建設部長
 ↓ 水位情報等 電話
 市町村長等

■ H30.7月豪雨対応での課題
 一部の市（備前市、瀬戸内市）に連絡漏れ

■ 今後
 市町村の意見を踏まえ、さらに効果的な運用を検討

